

心寄るべ

手稲東中学校報より

第16号 令和2年3月13日

札幌市立手稲東中学校

札幌市西区西野2条5丁目3番1号
電話 661-3363 FAX 661-3858

 <http://www.teinehigashi-j.sapporo-c.ed.jp/>

式 辞

～第68回卒業証書授与式～

9年間の義務教育に終止符を打ち、新元号の令和という新たな時代に今、旅立ちの時を迎えました。ご卒業おめでとうございます。248番目となる元号は万葉集から引用され、「心寄せあいそれぞれの自分の花を咲かせることができるように」との願いが込められています。

人は皆、自分という大輪の花を咲かせる種を持っています。目が出る時期や成長のスピードや必要な水分の量や日光の量は、一人ひとり違います。得意なこと・不得意なこと・好きなこと・嫌いなことが、人それぞれ違うように、咲かせる花も人それぞれ異なるでしょう。でも、皆さんが、いつか咲かせる大輪の花の種を必ず持っているのだということを感じておいてくださいね。

本日の授与式を迎え、ここまで育ててこられた保護者の皆様に改めて心からお祝い申し上げます。5本の指の中で、1本だけ違う向きに伸びている太くて短い指。ものをつかんだり握ったりするときになくはない指。人はそれを「親指」と呼びます。一生の出だしの15年を終える子どもたちが、自分の夢をつかんでいけるように、違う向きから寄り添いながらこれからも力を与えてくださることを改めてお願いいたします。

ここにいる卒業生一人ひとりが、それぞれの可能性に向かって色とりどりの大輪の花を咲かせるべく歩まれる前途を祝して式辞といたします。

令和2年3月13日



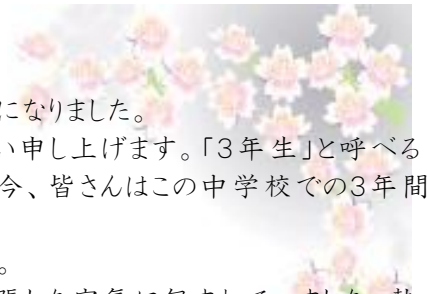
札幌市立手稲東中学校長



牧内 奈保巳



送る言葉



雪どけが進む中、暖かい日差しが私たちを包み、春の訪れが感じられるようになりました。

3年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。在校生を代表して心よりお祝い申し上げます。「3年生」と呼べる日が今日で終わりにってしまうと思うと、とてもさみしく、悲しい気持ちになります。今、皆さんはこの中学校での3年間でどのように振り返っているのでしょうか。

先輩たちとの数々の思い出の中で、私にとって印象深いものが二つあります。

一つ目は合唱コンクールです。本番直前の学級練習では、どのクラスも緊張した空気に包まれていました。熱心に練習に取り組む姿からは、勝利に向かうクラスの団結力と、最高学年としてのプライドが感じられました。また、クラスによって様々な取組の工夫があり、今まで自分が行ってきた練習を見直すきっかけとなりました。そして迎えた本番では、練習以上の迫力があり、美しいハーモニーを奏でていました。練習の中では困ったことやうまくいかないこともあったと思いますが、最後まであきらめずに頑張れば、感動を与えられる合唱へ進化していくのだと、先輩たちの姿から学びました。

二つ目は部活動です。私の所属しているバスケットボール部の先輩たちは、試合に出ている時はもちろん、試合に出ていない時にも大きな声で仲間を応援していました。そうして励まし合い、みんなで勝ち取った試合はとてうれしいものになりました。それはきっと仲間との絆があったからだと思います。辛い練習を一緒に頑張ってきた仲間、くだらない話をして笑い合った仲間。仲間との思い出があるから、くじけそうな時にでも頑張れるのだと思います。

このように先輩たちは学校生活の様々な場面で私たちの手本となり、手稲東中学校の新たな伝統を築いてくださいました。本来ならば、私たちが在校生も卒業式に参加し、お世話になった先輩たちへの感謝の気持ちを直接伝えなかったのですが、残念ながらそれもできなくなってしまいました。ですが、皆、3年生を思う気持ちは一緒です。

令和という新しい時代を迎え、世界はめまぐるしく動き続けています。たとえどんな困難に直面しても前向きな心で、夢に向かって邁進されることを、在校生一同、心よりお祈り申し上げます。私たちは皆さんが伝えてくださった手稲東中学校の伝統を受け継ぎ、より良い学校にすることを決意し、送る言葉とさせていただきます。



別れの言葉



在校生代表 佐藤 麻衣

例年にない雪の少なさの中、春らしさが感じられるようになってきました。今日、私たち173名はこの手稲東中学校を卒業します。

「長いようで短い3年間」と言いますが、多くのことを学び、経験し、成長した自分にとって、はじめてこの制服に袖を通した時の自分が、遠い昔のこのように感じられます。

部活動では、日々の練習の中で、仲間との厚い信頼関係を築き、全員で勝利に向かい戦う姿勢を教わりました。また、生徒会活動や学校祭、合唱コンクールを通して、協力し、目標を成し遂げることの難しさと、達成した時の喜びを感じることができました。振り返ると皆さんもたくさんの想いが胸をよぎってくるのではないのでしょうか。

期待と不安の中、上級生の合唱に温かく迎えられた1年生。入学してすぐの行事である校外学習では、工場見学や、新千歳空港でのスタンプラリーをしました。また、合唱コンクールでは、先輩のすごさを改めて感じました。この年にあった、70周年記念式典では、東中の歴史の深さを知りました。

はじめての後輩を合唱で迎え入れスタートした2年生では、宿泊学習で職場体験をし、自分の将来を考えるきっかけになりました。この年は、陸上競技大会が雨で中止。また、9月には胆振東部地震があり、数日間の休校となり、学校祭の準備にも支障が出ました。

3年生のはじめは、新しい学級となり、不安な気持ちでいっぱいでした。そんな中迎えた修学旅行は、一生の思い出に残る、素敵な3日間でした。最後の合唱コンクールでは、憧れのフィンランディアに近づこうと全力で取り組みました。

こうした様々な行事を経て、クラスの絆が深まり、それぞれが受験へと向かう中、だれにとっても大切な2週間が、新型コロナウイルスの影響により、突然失われました。3年間共に過ごしてきた仲間と、このような形で別れることになるとは思っていませんでした。楽しみにしていた三送会も中止となり、当たり前の日常のありがたさに、改めて気づくことができました。在校生への感謝の気持ちを伝えることも、最後に全校で合唱することもできなくなってしまいました。

しかし、この卒業式もやがて一生の記憶に残る、特別なものとなるのではないのでしょうか。

今、私たちは9年間の義務教育を終えます。教職員の皆様、地域の皆様、保護者の皆様、そして在校生の皆さん、このような中、卒業式の準備を進めてくださり、ありがとうございました。また、今まで支えてくださったことに改めて感謝申し上げ、別れの言葉といたします。

卒業生代表 東 伸悟